京城日報

畏し南方へ大御心
原住民に皇恩洽し
兩侍從武官 現地へ御差遣

佐藤侍從武官

【ニユーギニヤ〇〇廿二日野中海軍報道班員發】ニユーギニヤ民政府軍政状況實視のため御差遣あらせられた佐藤侍從武官は一日午前十一時五十分〇〇に飛來、直ちに現地海軍〇〇隊並にニユーギニヤ民政府を歴訪、次いで同民政府總監ら幹部の先導で現地開發狀況を巡視した、この日侍從武官巡視の光榮に輝くニユーギニヤ民政府には大日章旗が開翻と翻へる、侍從武官を迎へる〇〇機關はじめ沿道の官舍、原住民々家も掃き清められ、それ〴〵日章旗を掲揚、やがて侍從武官搭乘機は〇〇機に着水した、佐藤侍從武官は現地海軍〇〇隊を巡視、ついで民政府總舍前で民政府職員を引見、ニユーギニヤ開發に挺然の若地に挺身する人は感激の瞳を輝かしたのであつたが、民政府職員とともに堵列して侍從武官を迎へたインドネシヤ人の純白の背廣服の後方には、この日、特に光榮を分たれた原住民パプア人が物々しい盛飾りに弓矢を携へて盛裝を凝らし、皇恩に浴したのであつた、次いで佐藤侍從武官は民政府總監同乘の自動車で民政府宿舍、製材所、病院などを巡視、更に沿道堵列の原住民の敬禮に民政府の農場に到着、パプア人の農耕作業を視察し次いで密林を拓伐する伐木場に赴いたが、折から伐り倒された巨木の轟音はトラクターの響きをかき消し、作業中の邦人などの感激も一入深かつた、かくて午後五時佐藤侍從武官らは宿舍に歸還一泊、二日午前九時空路〇〇に向つた

坪島侍從武官

【太平洋〇〇基地にて廿二日同盟】猛暑熾熱の南太平洋方面にある困苦缺乏に打ち克つて打倒に邁進する大東亞戰爭將士に對し、畏き邊りより御差遣の侍從武官は三月〇〇日現地〇〇隊長以下の出迎へをうけ〇〇着、全將兵に對して聖旨、令旨を傳達、次で〇〇飛行場で同樣聖旨、令旨を傳達した、病院さらに遠く〇〇方面に飛び、令旨を戴き御差遣のみ心を拜した前線將兵は泣し、米英必滅の決意をさらに深く誓つた、かくて同侍從武官は〇〇日〇〇部隊長以下見送り裡に〇〇飛行場發一路歸還の途についた

西國船擊沈か

【マドリード二十一日同盟】タンジール來電によればスペイン船カステイヨ・デモンタナグロ號はセネガル沖でイギリス潛水艦の砲擊をうけ擊沈されたと傳へられる

青木亞相一行 バンコック着

【バンコック廿二日同盟】青木大東亞相一行は廿二日朝サイゴンより空路バンコックに向ひ十一時卅分〇〇飛行場に晴れの第一步を印した、この日飛行場には坪上大使、ピブン首相、ピイチツト外相以下日泰軍官民多數が出迎へ青木大東亞相は長途の旅の疲れも見せず飛行場に降りたち出迎への人々と固き握手を交したのち泰國政府差廻しの自動車でバンコツク市中の宿舍パントクシンに入つた

【バンコツク廿二日同盟】廿二日晴れの泰國訪問の第一步を印した青木大東亞相一行は同日正午大使官邸において坪上大使以下と午餐を共にしたのち午後二時まづワツト・プラケオに詣でエメラルド佛に敬拜、チヤクリ・パレスに赴いて王室ならびに攝政に記帳、續いてピイチツト外相、ピブン首相、プロツト人民會議々長、パホン大將などを歴訪して來泰の挨拶を述べ、ついで一行は泰國戰捷記念堂に花環を捧げたのち〇〇部隊長ならびに陸海兩武官室を訪問、更に午後四時より大使館に於いて館員一同を前に訓示を行ひ、石井、新納兩參事官より現地情勢に關する報告をうけ事務打合せを行つたついで午後六時より宿舍に於いてピブン首相、ピイチツト外相らの答訪を受けた、夜は午後八時より外務省に於いてピイチツト外相主催の歡迎晩餐會に出席して泰國政府首腦と交驩し訪泰第一日の日程を終つた

警視總監に薄田氏
內務次官は唐澤俊樹氏

【東京電話】今次の內閣改造に當り辭表を內相に提出して辭任した山崎內務次官、三好警保局長及び吉永警視總監の後任については安藤新內相の手許で銓衡を進めてゐたが、廿二日夜その人選を終へ持廻り閣議の決定を經て上奏御裁可を仰ぎ同夜左の如く發令された

任內務次官(一) 富山縣知事 唐澤 俊樹
任內務省警保局長(二) 町村 金五
任警視總監(一) 鹿兒島縣知事 薄田 美朝
依願免本官 內務次官 山崎 巖
警保局長 三好 重夫
警視總監 吉永 時次
依願免本官(各通)

新任三氏略歴

唐澤新次官 唐澤內務次官は長野縣出身、本年五十三歳、大正四年東大法科を卒業した俊才、昭和七年內務省土木局長、同九年警保局長に榮進したが二・二六事件によつて官界を去りそれ以來浪人三年その間政變のある毎に要職への復活を噂されたが同十四年阿部內閣で法制局長官に拔擢され綜合の才腕を揮ひ同內閣退陣とともに再び官界を去つた、その後東亞研究所常務理事になつてゐたが、興亞同盟の發足に際し研究委員會委員長となつた、氏は內務畑の生拔きで警保局長時代には總選擧に際し所謂「選擧一掃」を斷行して政黨關係を震ひ上らせ、また法制局長官として登場するや政策政綱の立案作成に携り貿易省問題では强硬に押し通つたが修正を餘儀なくされた、由來唐澤俊樹といへば後藤文夫を連想、後藤文夫といへば唐澤俊樹を連想されるほどこの兩者には强い繫りがあり內務行政においては押されもせぬ第一人者となつたが、氏の智囊袋はどんな椅子をあてがはれても常に餘裕綽々たるものがあり東條首相、安藤內相に認識されて非常時局下に於ける內務行政に經驗なき安藤內相の良き女房役として期待されるところ大きい

町村新警保局長 町村新警保局長は東京出身、本年四十四歳、大正十三年東大政治科卒、役人生活第一步が青森縣、ついで靜岡縣、昭和五年に宮內省入りをして湯淺宮相の下に五年半大臣秘書官を務めあげ同十一年內務畑へ復歸、岐阜、三重の警察部長を經て本省警務課長、人事課長と榮進した、一年八ケ月人事課長の椅子にあり三度にわたる地方長官大異動を手際よく片付けた手腕を買はれ、十六年一月所謂十三年組のトツプを切つて一躍富山縣知事に榮轉した、富山縣では食糧增産、產米供出肥料問題の解決など名行政官ぶりを見せ昨年の總選擧においても綏嚴宜しきを得て縣民から名長官として評判がよかつた

薄田新警視總監 薄田新警視總監は警察畑の俊才、昭和十年の京都府に於ける大本敎檢擧の際には唐澤警保局長のもとに京都府警察部長として檢察陣を指揮し敏腕ぶりを發揮して一躍異色ある存在を示した、また昭和十四年滿洲國治安部次長時代には當時關東軍參謀長たりし東條首相、總務長官であつた現星野書記官長と肝膽相照す仲であつた、直情徑行である半面情にも富み、よく治績をあげてゐながら比較的不遇の道を辿つて來た、氏の今回の榮進は遅きに過ぎたともいへよう

情報局次長
村田五郎氏に決定

【東京電話】天羽情報局總裁は奧村喜和男氏の辭任に伴ふ情報局次長の後任として現群馬縣知事村田五郎氏を起用することに決し、東條首相の決裁を經て廿二日の持廻り閣議において正式決定上奏御裁可を仰ぎ同夜左の如く發令された

任情報局次長(一) 群馬縣知事 村田 五郎
依願免本官 情報局次長 奧村喜和男
內閣辭令(廿二日)
企畫院調査官兼

村田新次長は長崎縣出身、大正九年東大法科を卒業、昭和五年岡山縣警務部長、同七年長崎縣、同八年警保局、同十年一月京都府各警務部長を歴任、滿洲入りをなし十五年內務省に復歸して群馬縣知事、同十六年鹿兒島縣知事となつて今日に至つた、秋田縣出身本年四十七歳

三縣知事後任けふ發令

【東京電話】內務省では情報局次長に榮轉した群馬縣知事村田五郎氏及び警視總監に拔擢された鹿兒島縣知事薄田美朝氏及び警保局長に榮轉せる富山縣知事町村金五氏らの後任補充の異動は廿三日正式に發令されるはず

內閣總理大臣秘書官 陸軍大佐 赤松 貞雄
兼任文部大臣秘書官(三)
文部大臣秘書官 內山 孝一
依願免本官

後藤文夫氏昇格
翼贊會副總裁の後任

【東京電話】東條翼贊會總裁は今次內閣改造に當つて翼贊會副總裁から內相に轉じた安藤紀三郎中將の後任につき同中將の意見をも參酌しつゝ慎重銓衡を進めてゐたが現翼贊會事務總長後藤文夫氏を昇格するに決し廿二日午後一時同氏を首相官邸に招き交渉の結果その承諾を得、同時に同副總裁をして事務總長事務取扱並に翼贊壯年團團長を兼任せしめることとなり同日午後左の如く發令した

大政翼贊會辭令
大政翼贊會副總裁・安藤紀三郎 願に依り役を解く
副總裁を委囑す 後藤 文夫
事務總長事務取扱を命ず 後藤 文夫
大日本翼贊壯年團長 安藤紀三郎 願に依り役を解く
大日本翼贊壯年團顧問 後藤 文夫
大日本翼贊壯年團長を命ず
中央協力會議議長 安藤紀三郎 願に依り職を解く

翰長、阿部總裁要談

【東京電話】星野內閣書記官長は廿二日午後三時本部に阿部翼政會總裁を訪問、前田常任總務を交へ政府翼政會との連絡、翼政會改組等當面の問題につき懇談、同卅分辭去した、なほ阿部總裁は更に同五時首相官邸に星野書記官長を訪問要談した

强力な政治的效果
田中總監喜びを語る

大陸連絡會議終る

第三回大陸連絡會議は廿一日に引つゞき廿二日午前九時半第一會議室に幹事及び關係官併せて四十五名出席、江口總務局長司會して附議事項につき懇談を遂げ十一時四十分閉會、一方滿洲武部總務廳長官、華北鹽澤公使、蒙疆岩崎公使、朝鮮軍井原參謀長、〇〇軍池田少將、企畫院秋永第一部長、內務省新居國土局長、大東亞省竹內總務局長、朝鮮側小磯總督、田中政務總監等各地首腦者、オブザーバー十二名のみで十時から景武台總督官邸應接室において午後一時十分まで首腦者懇談を小磯總督中心に行ひ、一時半龍山軍司令官々邸に板垣朝鮮軍司令官招待午餐會に幹事會出席者と共に臨んだ、二時半から李王職の雅樂演奏を聽き、昌慶苑を見物、三時半午前に續き幹事會を再開した、華北小林大使館交通部長から大陸諸地域に於ける交通運輸の整備について說明、意見の開陳あり、企畫院村山第一部第三課長の發言あつて幹事會を終了、四時半委員會を再開、江口總務局長から幹事會に於ける討議懇談の内容、それに基づき決定した申合せ事項を報告、これを委員會に附し採擇し、松本海軍大佐から發言あり、次いで第四回會議開催地を十月ころ新京と決定、最後に小磯總督から出席者に對するお禮をかねた閉會の挨拶あり六時十五分會議を終了した、この間別項田中政務總監コムミユニケの如く第三回京城會議は大陸諸地域間が決戰下に於ける戰力增强の課題完遂を期しその力量を最高度に發揮し得るところの紐帶を劃期的强さにおいて結合するに成功、完璧の大陸決戰體制を樹立、第四回新京會議を約しつゝ戰力增强に向つて對日寄與體制整備のために積極的相互援助の遂行に邁進する固き決意を固め意義深き京城會議の幕を閉ぢた

◇

田中政務總監は會議終了後記者團と會見、次の如く會議の所見を披瀝した

この度第三回大陸連絡會議を朝鮮側の主催の下に開催致したところ、關東州並に滿洲國、北支、蒙疆の各政府、日本大使館及び軍の首腦部が出席せられ、なほ又その他オブザーバーとして內務省、大東亞省、企畫院等からそれ〴〵首腦部の人々が參席されて會議を至極和やかに順調に進めることが出來誠に欣快にたへないところである

この會議は成立當初から形式張つた討議、談判とか言つた形態を極力避けて極めて肩の凝らない話合を各地域の首腦者及び中堅事務當局同志が集つて腹藏なく懇談するといつた形式を採つてをり、會を重ねるに從ひ全員顏なじみといつた關係になつて會議の空氣も和やかで非常に好ましい雰圍氣を醸して參つてあることは嬉しく感じた次第である、本回の會議は附議事項として

一、大陸諸地域に於ける國內事情特に重要政策の紹介並にこれに對する相互援助に關する事項
二、大東亞戰完遂に關し大陸諸地域の積極的協力に關する事項
三、大陸諸地域間に於ける交通運輸の整備に關する事項

以上三項目が主な議題であつた、その他各地域の出席者から戰力增强に關する種々な意見が交換せられた

會議進行の形態は昨廿一日全體會議をなし、今廿二日は二つに分れて各地域代表者は總督官邸で總督を中心としてお互に十分突込んだ意見の交換を行つた、一方その他の委員及び幹事諸君は本府會議室に前記附議事項に關しての幹事協議會を開催致した、その後午後四時半から更に全體の懇談會に移つて幹事會に於いて取決めた事項の報告を受け、それに基づき會議を進めたのでこの間企畫院關係官及び海軍側からの意見開陳等もあつた、最後に總督から挨拶して頂き終會と致したのである、私共は各々特質を持つてゐる各地域がこの決戰體制下に於いてがつちりと組合つて各地域の持つ最高度の能率を發揮して行く體制が愈々これにより强化させられたことを國家のため誠に喜びに堪へないと思ふ次第である、將來益々食糧問題の打開、戰時緊要物資の緊急增産、各種技術の相互援助、設備資材の融通、勞務需給の調整、輸送力の增强等に關して果敢に邁進して行きたいと決意致したのである

會議直接の成果といつたものは具體的物案によつて決められる如きものではなかつたが、大陸諸組として組合つて行く非常に强力な政治的基礎を確立し得たといふ政治性の效果であつた、次回は本府新京に開催される豫定である

出席者離城日程

第三回大陸連絡會議はその重要課題を果して廿二日終了したが、出席關係者は次の日程で離城する

廿三日午前八時十分發興亞で滿洲國武部總務長官隨員一名、〇〇軍池田少將、小尾大佐隨員二名、關東局塚本事務官、同九時十五分發大陸で張家口大使館出張所橋場經濟部長、北京大使館渡邊經濟部長外一名蒙古政府外山主計科長外一名、張家口大使館出張所孫淵政務科長の五名は同十時五十分發四田遞信局海事課長の案內で廿四日內金剛、廿五日外金剛、廿六日興南日窒工場、廿七日京城着の日程で視察、滿洲國古海總務廳次長外一名、企畫院秋永第一部長、關東局伊藤司政三課長外一名、內務省新居國土局部長外一名、新京大使館花輪參事官外二名、大東亞省佐々木調査官外一名の十二名は二時十五分京城發兵頭企畫部長の案內で廿四日水豐ダム、廿五日新義州着の日程で視察、北京大使館鹽澤公使外一名、張家口大使館岩崎公使外一名、大東亞省竹內總務局長、〇〇軍中村中佐の一行は廿三日朝發空路北京へ、北京大使館小林交通部長同盟へ、廿四日午前八時四十五分發〇〇軍木村中佐は元山方面へ

日本の使命達成へ
大所高所から結束
總督挨拶

小磯總督は開會に當つて大陸各地域は大所高所から眞の結束を固め大東亞戰完遂に皇國戰略の布陣を確立、日本の使命達成に甚大なる寄與貢獻をすべきであると述べて廿日午後會挨拶における內地依存脫却、積極的對日寄與體制への轉換方策と相まつて極めて調子の高い大陸の決戰體制確立方途を內容とした挨拶をなし全參會者に多大の共感を與へた、總督挨拶の要旨は次の通りである

◇

終始本會議に列席して諸地域首腦者各位の意見を拜聽し得たことは感激にたへない次第である、至極和やかな雰圍氣の裡に大所高所から眞摯な所見の開陳があつたことに敬意を表する、一切を超越して邁進せねばならない眞の超非常時局の下にあつて各地に特殊な性格があることは事實であるが、各地の事情のみを考へる事は各地間に隔りを作る事になり、延いては總力結集を阻むこととなる、高度の總力結集を要請する現下時局にあつては大所高所から眞の結束を固め各自の長所短所を補足し合つてその特質を遺憾なく發揮に努め、各地結束して大東亞戰完遂に邁進し皇國戰略の布陣を固め日本の尊高なる使命達成に甚大なる寄與貢獻をしなければならぬ

◇

かやうに考へて來るとき朝鮮に於ける我々の努力の足らない點は今後各地から補足して頂き大所高所から半島統理を運行し目的の達成に進みたい

次回作戰もビルマ奪回
前アジヤ艦隊司令官强がる

【ブエノスアイレス廿一日同盟】ビルマ戰線でイギリス軍が敗敗を重ねる印度國境方面へ退却してゐる折からプリンストン來電によれば前アメリカアジヤ艦隊司令官ヤーネルは未だビルマ奪回の夢から覺めず笑止にもつぎのやうに述べたと傳へられる

大西洋戰線における次の大規模作戰はビルマ、ラングーン奪回を目指すことにならう、日本を最後に敗北せしめるには支那を通じて攻擊するほかなく海軍力のみでは日本を打倒し得ぬであらう、日本は現在太平洋において遲延作戰に出てゐるが日本がきはめて短縮期間に於大なる地域を占領した事實は史上空前の成功といふべきだ

米の惡辣な新戰術
イタリー政府、國民に警告

【ローマ廿二日同盟】去る四月十三夜米國航空部隊はシチリヤ島カステベトレーノ市を爆擊したがその際機上から爆彈仕掛の萬年筆および鉛筆を投下した、數日後それを拾つた子供達が大怪我をした事件が起つたので、イタリー政府は米のかゝる惡辣な新戰術に對し十分注意するやう全國民に警告を發した

赤機四六擊墜
芬軍司令部發表

【ヘルシンキ廿一日同盟】フインランド軍司令部は廿一日フインランド空軍がフインランド灣セイスカリ上空で廿五機よりなる赤軍航空部隊と交戰、うち十九機を擊墜した旨公表した、この結果過去四日間にフインランド軍が擊墜した赤軍飛行機は總數四十六機に達した

樞軸軍、籠城戰術か
チユニジヤ戰線

【ベルリン特電廿一日發】チユニジヤ戰線の英第八軍は十九日夜十一時を期し再び攻擊を開始し、樞軸軍南方陣地アンフイダビル東方の海岸寄り陣地に猛烈な攻擊の火蓋を切つた、廿一日英側發表では樞軸軍陣地前面には廣大な地域に亘つて地雷が敷設され、今回は充分に近接戰の裝備を整へた英步兵部隊は、これを突破するに非常な困難を感じ激戰となつたが、英軍は折柄の月明を利用してアンフイダビル北方廿粁まで進出第一の攻擊目標は既に奪還したと宣傳してゐるが、獨側ではこれを否定し英軍は人員と兵器に非常な損失を受けてその出發點に擊退されたとなし、その際莫大な捕虜と鹵獲兵器を得たと發表してゐる

總督府辭令(廿一日)

任本府道理事官(七) 平安北道在勤を命ず
平北道屬 金光 仁哲
同 朱村 個龍
成北理事官 沼澤 悟郎
同 平沼 正三
同 長野 龍藏
依願免本官(各通)

消息

◇湯村辰二郎氏(朝鮮農業統制社長)廿二日金剛へ
◇永谷佐平氏(朝鮮木材常務理事)內地材移入折衝のため廿二日九州へ
◇內野正夫氏(輕金屬統制會朝鮮支部長)東上中の所廿三日歸城の豫定
◇高橋省三氏(日本マグネ社長)廿五日午後七時四十分發城津へ
◇奥村信太郎氏(毎日新聞社長)廿三日朝入城
◇淵脇宏光子爵 同上

社說
推薦制選擧を活用せよ

一

半島地方議會の決戰體制を確立せんとする府、邑會議員並に面協議會議員の總選擧は半島最初の試みたる推薦制により來る五月廿一日全鮮一齊に執行される、既に廿二日京城府を初め各府邑面に於いて推薦候補者の氏名が發表され、愈々選擧戰に入つた。いふまでもなく決戰下の肅正選擧である。從來の選擧に對する如きお祭り騒ぎ、或は行事的興奮にかられて、神聖なるべき選擧を冒瀆するが如き言動はこの際嚴かに慎むべきことであつて、選擧をして公正明朗にしかも實效の迅速にあがるやう、嚴肅なる選擧が行はれねばならぬこと勿論である。

二

かゝる意味において今回初めて試みられる推薦制度の成果に多大の期待がかけられる。推薦制度の得失については我等はかつて本欄に幾度か批判を試みたが、時局下推薦制の持つ重要意義はいふまでもないとして、問題はその推薦制度が如何に選擧民にとつて誤りなく理解され、その意義に徹することによつて如何に選擧權を有效に行使するかといふことにある。即ちこの推薦制を生かすも殺すも一に有權者の胸三寸にあり、この意味で有權者の時局認識と從つて推薦制選擧に對する理解如何は極めて大きな影響力をもつものであることを忘れてはならぬ。

三

次にこの推薦制に對する正しき態度については同樣に被選擧者についてもいへる。即ちこの推薦制は一方において自由立候補の餘地を許容してゐるものであるから資格さへもてば推薦候補者の如何に拘らず、自由意思によつて立候補し得るわけであるが、問題は實にこの途に對する被選擧者の立場にたつもの丶態度一にかゝる、具體的に云つて推薦候補者に對する不平不滿もあらうし、名譽心にかられた自惚れ、私情に基く競爭心といつた心理が不知不識の間に自由立候補への慢心を生ずることもあらう。然しこの時、この際慎むべきは一個人の感情や利害關係に立つ妄動である。

四

推薦制度の目的は淸新にして潑剌たる忠良有爲なる人材を地方議會に送り、地方議會をして眞に盛り上る國民の總意の下に革新せんとするところにある。その推薦母體はあくまで公平にして、公正であるはずである。野に一人の遺賢なからしめると いふことは至難なことであるとしても、この推薦する候補者は大體衆目の一致して、忠良有爲なる人材と斷じてよきほどの人材である、選擧民はかゝる意味に於いて推薦候補者をあくまで信頼してよいと思ふ。たゞそこにも選擧の自由は殘されて居り推薦候補者中のうち最も信頼する者を選べばよいのである。

五

かくて推薦制選擧の公正に選擧權者も被選擧權者も双方によつて嚴守されねばならぬ。私利私情に基く自由立候補がもはや現在の社會が許さぬものであると同樣に私利私情に基く選擧權の行使ももはやこの世のものではないのである。銃後生產增强に挺身せねばならぬ今日、無用の競爭を敢てし、選擧運動に没頭するが如きことは國家の損失である。かゝる意味でも我々は推薦制を活用して、極めて有效的に選擧の實をあげることに努力せねばならぬのである。

靖國神社招魂式 儀仗隊の捧銃 (電送)

徐中華大使に勳章御贈與

【東京電話】畏くも天皇、皇后兩陛下にはいよいよ近く離任歸國する前駐日中華民國大使徐良氏御慰勞の思召をもつて廿三日午後零時半宮中に召され、高松宮妃、三笠宮妃兩殿下にも御臨席、松平宮相、重光外相をはじめ側近なども召され豐明殿において午餐の御催しあらせられるが、同大使在任二ケ年餘にわたつて決戰下の日華親善關係增進に寄與すること少からず盡瘁した大使に對し、勳章御贈與の御沙汰あらせられた

在本邦中華民國特命全權大使 徐 良
贈與勳一等旭日大綬章

なほ右勳章は吉岡外務省儀典課長が午前十一時半大使館に赴き徐大使に傳達した

石油の重點配給を徹底
專賣制令けふ公布
愈々七月一日から實施

決戰下石油の重要なる價値に鑑み總督府は内地同樣鮮内に石油專賣制を施行に決定し、この旨十五日政務總監談の形式で發表、豫算その他の措置を講じつつあつたが、廿三日制令を以つて朝鮮石油專賣令を公布し、七月一日から施行することとなつた、公布を機に上瀧殖産局長談を發表し、これが内容と施行の意圖を鮮明にして、官民の協力支持を要請した

すなはち朝鮮における石油專賣制は内地と同一内容のもので内地と相違してゐるのは所管官廳を特別に增設せず殖産局燃料課に於いて取扱ふ點、元賣捌人に對する價格を公示せず特別價格資渡の規定を設けなかつたことの二點である

かくして組合機構になつた鮮内の配給統制は徹底した重點配給を末端まで滲透完璧を期し現物を國家が一手に掌握、販賣專賣を實施する最强力統制形態まで進展し、官廳と民間の二重機構になつた間隙はここに完全に撤消強化されることとなつた、石油專賣令は附則とも全文卅三ケ條から成り製造の許可制、販賣專賣、罰則の強化、即ち製造者の製品政府納付義務違反政府代行以外による輸移入等には懲役三年以下、一萬圓以下の罰金、價格違反は二年以下の懲役又は五千圓以下の罰金、賣捌人指定違反は一年以下の懲役又は二千圓以下の罰金等である、また本令附則において税令の改正をみた經過規定として、石油製造業の屆出期間は施行後一ケ月、賣捌人は施行後二ケ月と規定された

殖産局長談

十五日政務總監談話の形式を以て朝鮮における石油專賣の[…]透完遂せんとすることこそ本專賣の狙ひに他ならない、斯る目的は其儘本專賣をして在來の如き財政收入專賣と區別せしめる一大特色を成すものと言ひ得やう、更に又罰則を強化したることも注目を要する點であり總動員法、臨時措置法のそれには及ばぬ迄も從來の諸專賣に比すれば著しく強化されたものと言はねばならない、次に本專賣令の内容は各條文に付て見らるゝ如く三十三ケ條より成り實質的には内地の法律と殆ど同一であり敢て説明を加へる迄もないのであるが朝鮮の現狀に鑑み官廳機構の增設を圖らなかつた結果賣買上政府の元賣捌人に對する價格を公示せず、特別價格資渡の規定を設けなかつたとの二點において内地と異るに過ぎないのである、其他盡に公表致した如く本專賣は販賣過程に對する專賣で製造に及ばぬこと、その對象は單の管理に屬するもの以外の石油製品で原油は除外されること、民間配給機構は殆んど其儘元賣捌人、普通賣捌人(名稱未定)に指定すること、現行諸價格も大體に於て現狀を維持する根本方針に變りなきこと、過渡的な混亂を避ける爲經過的の措置を講じたこと等の諸點に留意されれば足るであらう、尚本專賣の主管官廳に付て巷間種々の取沙汰ある模樣であるが殖産局に於て管掌する事と相成つて居り何れにせよ六月初旬には之等内容を具體化したる關係府令二件の發布と並に關係法令の改廢も行はれ七月一日を期して施行の運びとなる筈である、最後に本措置は大東亞戰爭を勝拔く爲に絶對必要な施策と確信するものであり配給業者は申すに及ばず製造者も消費者も劃期的強化と感じ合はせて政府の意圖する處を諒承せられ全幅の御協力を希望するものである

朝鮮石油專賣令

第一條 政府は石油の專賣權を有す

第二條 本令に於て石油とは揮發油、燈油、輕油、機械油、重油、石油副製品及び此等の類似品にして朝鮮總督の定むるものを謂ふ

第三條 石油の製造を爲さんとする者は朝鮮總督の定むる所に依り政府に屆出づべし其の製造を廢止せんとするとき亦同じ

第四條 前條の規定に依り石油の製造を爲す旨の屆出を爲したる者(以下石油製造者と稱す)の製造したる石油は政府之を收納す

第五條 政府は其の收納する石油の規格を定むることを得

前項の規格に適合せざる石油に付ては政府は適當なる處理をなすべきことを命ずることを得

第六條 政府はその收納したる石油に對し賠償金を交付す

石油の賠償價格は政府これを定め豫め公示す

第七條 石油製造者はその製造したる石油を總て政府に納付すべし、但し朝鮮總督の定むる場合は此の限に在らず

政府は納付の期日及び場所を定むることを得

第八條 石油は政府又は政府の命を受けたる者に非ざれば之を輸入し若は移入し又は輸出し若くは移出することを得ず

第九條 石油は政府又は政府の指定する賣捌人(以下石油賣捌人と稱す)に非ざれば之を業として賣渡することを得ず、本令に規定するものを除くの外石油の賣渡及び石油賣捌人に關する規定は朝鮮總督之を定む

第十條 石油賣捌人は政府の定むる價格を超えて石油を賣渡することを得ず

第十一條 石油は政府の賣渡したるものに非ざれば之を所有し、所持し、讓渡し、買入し又は消費することを得ず、但し本令又は朝鮮總督に於いて別段の定を爲したる場合はこの限に在らず

第十二條 石油製造者及び石油賣捌人は朝鮮總督の定むる所に依り石油の製造、納付又は賣渡に關する事實を帳簿に記載すべし

第十三條 當該官吏は石油製造者若は石油賣捌人に對して報告を爲さしめ、又は石油の製造場若は貯藏場、石油賣捌人の營業場その他必要なる場所に立入り、石油材料、容器、器具、機械、建物、帳簿、書類その他の物件を檢査し若は取締上必要なる處分を爲すことを得

當該官吏は運搬中の石油の出所若は到着先を質問し又は當該物件を檢査し必要と認むるときはその運搬の停止その他取締上必要なる處分をなすことを得

前二項の場合に於て當該官吏は關係人をして立會はしむること得

第十四條 左の各號の一に該當する者は三年以下の懲役又は一萬圓以下の罰金に處す

一、第七條又は第二十七條の規定に違反して政府に納付すべき油を讓渡し、消費し又は隱匿したる者

二、第八條の規定に違反して石油の輸入若は移入又は輸出若は移出を爲したる者

第十五條 第十條の規定に違反し政府の定むる價格を超えて之を賣渡したる者は二年以下の懲役又は五千圓以下の罰金に處す

第十六條 左の各號の一に該當する者は一年以下の懲役又は二千圓以下の罰金に處す

一、第九條第一項の規定に違反して石油を賣渡したる者

二、第十一條の規定に違反して政府の賣渡さざる石油を所有若は所持し讓渡し、買入し又は消費したる者

第十七條 前三條の罪を犯したる者には情狀に因り懲役及罰金を併科することを得

第十八條 第三條の規定に違反して政府に屆出を爲さずして石油の製造を爲したる者は二千圓以下の罰金に處す

第十九條 左の各號の一に該當する者は千圓以下の罰金に處す

一、正當の事由なくして第五條第二項の規定に依り政府の命令したる處理を爲さざる者

二、正當の事由なくして政府の指定したる納付期日に石油を納付せざる者

三、第十二條の規定に依る帳簿の記載を爲さず又は之に不正の記載を爲したる者

四、第十三條の規定に依る當該官吏の質問に對し答辯を爲さず虛僞の陳述を爲し又は其の職務の執行を拒み、妨げ若は忌避したる者

第二十條 第十四條乃至第十八條[…]

附則

第廿四條 本令施行の期日は朝鮮總督之を定む

第廿五條 本令施行の際現に石油の製造を爲す者は本令施行後一月以内に朝鮮總督の定むる所に依り政府に屆出づべし

前項の規定に依る屆出を爲したる者は之を石油製造者と看做す同項に掲ぐる者同項の規定に依る屆出を爲さざる場合と雖も同項の期間内に於ては亦同じ

第十八條の規定は第一項の期間内同項に掲ぐる者に之を適用せず

第二十六條 本令施行の際現に業として石油の賣渡を爲す者にして本令施行後其の賣渡を繼續せんとするものは本令施行の日より二月以内に石油賣捌人の指定を受くべし

前項に掲ぐる者は同項の規定に依る指定を受けざる場合と雖も同項の期間内之を石油賣捌人と看做す

第二十七條 石油製造者が本令施行の際現に所有する石油は之を政府に納付すべし但し朝鮮總督の定むる場合は此の限に在らず

第六條の規定は前項の規定に依り政府に納付する石油に之を準用す

第二十八條 石油製造者以外の者が本令施行の際現に所有する石油に付ては第十一條の規定を適用せず

第二十九條 朝鮮揮發油税令は之を廢止す但し左に掲ぐる揮發油に付ては仍同令に依る

一、本令施行前に揮發油税を課し又は課すべかりしもの

二、朝鮮揮發油税令第七條の規定に依り本令施行前に製造場又は保税地域より引取りたるもの

三、本令施行前に輸出の目的を以て製造場又は保税地域より引取りたるもの

第三十條 朝鮮間接國税徴收補則中左の通改正す但し本令施行前に揮發油税を徴收すべかりし揮發油又は本令施行の際現に關税法第三十九條の規定に依り運送中の揮發油にして同法第三十九條の三の規定に依り關税を徴收するものに付ては仍從前の例に依る

第一條及び第二條中『朝鮮揮發油税令』を削る

第三條中『朝鮮揮發油税令、』『、揮發油』及び『揮發油税』を削る

第卅一條 朝鮮間接國税犯則者處分令中左の通り改正す、但し本令施行前の行爲に依る犯則事件に付ては仍從前の例に依る

第二條中『揮發油の揮發油税』を削る

第卅二條 朝鮮出港税令中左の通り改正す

第一條第一號中『揮發油、』を削る

第卅三條 昭和十八年制令第十號中左の通り改正す但し第廿九條各號に掲ぐる揮發油に付ては仍從前の例に依る

第一條中『揮發油、』及び『朝鮮揮發油税令、』を削る

石油專販制で 新統制會社再發足

石油專賣の政府專賣制に伴ひ朝鮮石油統制會社は七月一日から鮮内における石油元卸會社として再發足、重點主義に基く石油の適正圓滑なる配給を行ふことになるが、同社の名稱は朝鮮石油販賣會社(假稱)の名稱のもとに陣容ならびに機構の改革を行ひ強力なる國策會社として巨歩を踏み出すはずである

交易營團實現に伴ひ 半島にも支部設置か
田村朝商理事歸任談

十五、六の兩日東京で開かれた全國商議理事會に出席のため東上中であつた田村朝鮮商議理事はこの程歸任、商工經濟會その他當面の諸問題について左の如く語る

◇……十四日、日本商議で開かれた時局對策委員會に出席したが、その際問題になつたのは港灣荷役強化方策に對する關係各省のセクショナリズムである、この點朝鮮は總督統理による一元的强力な政治が行はれてゐることを力強く感じた

◇……全國理事會には商工省から[…]局長はじめ關係官が臨席して商工經濟會の運營に關する政府當局の方針を明示した、内地は六月一日付で全國一齊に商工經濟會の設立命令を發し九月中旬頃までに全部設立を完了することになつてゐる、商工經濟會の實現について朝鮮が獨自の方針で進む場合における商工省當局の意向を質したところ商工省としては内務省と緊密な連絡をとり朝鮮も可及的速かに實施するやう準備を進めてゐる、而して出來得れば朝鮮は一歩を進めて全鮮を單位とする法人組織の中央商工經濟會を設け各道へその支部を設置してもらひたいとの希望意見があつた

◇……これに對し私は朝鮮も内地の府縣單位と同樣に道單位の商工經濟會を設置するやう要望した、日商は五月末限りで發展的に解散し六月十日より任意團體として新發足することになつた[…]會との今後における緊密方策についても種々打合つた、東亞經濟懇談會は[…]要請に即應するため、從[…]談會的な性格を解脫して[…]な施設事業を實施すべく[…]意研究を進めてゐるので[…]括關は期して俟つべきもらう

◇……最後に貿易局長官と會に於いて交易營團實現[…]朝鮮の貿易統制機構改[…]つき將來朝鮮にも同營團[…]を設置するか否かを[…]『目下研究中』であ[…]のみで具體的方針を明[…]なかつた

藁工品目標突破す

農閑期を利用して藁工品の生產に大童であつた京畿道の昨十七年十[…]ろであるが、外は全部目標を突破するの好成績を示した、各郡別成[…]

議政府邑議推薦候補

【議政府】議政府邑會議員推薦委員によつて愼重銓衡の結果、廿二日左の通り決定

石橋 滿(五〇)果物[…]

朝鮮の鐵鋼業の動向【下】
波江野繁

埋藏資源の活用

[…]

加工業の整備

[…]なるのは、加工業として最も本格的な機械、工作工業である、これ等は現在では自家用的規模のものを除くと、その殆ど大部分は内地に依存してゐる、鮮内に於ける自給鋼材が増加して來れば(勿論第一次には素材鋼材の自給からはじまるのであるが)次には工作機械等加工品の内地依存脱却でなければならぬ、然しこれには當該企業の經營單位を考へねばならず、從つてまた成品の需要範圍の劃定が問題となり、そのことはやがて鮮支を打つて一丸とする大陸經濟の確立といふ大きな問題まで一應構想の中に採り入れて、はじめて解決せらるべき問題である

以上大體朝鮮に於ける鐵鋼の需給關係を中心として今後の動向に付いて少しく觸れてみたのであるが角度を變へて問題を論ずるならば鮮滿物資の交流問題、對外對内兩者に亘る輸送難の克服等、見逃すことの出來ない重要問題が殘されてゐる、輸送問題はわが戰時經濟運營上の最重要問題の一つであり、單に朝鮮だけの問題ではないが、われわれは過去一ケ年實際朝鮮に於ける鐵鋼統制の衝に當り、輸送力の貧困が如何に朝鮮における經濟政策遂行上の癌をなしてゐるかといふことを親しく目擊して來たのである、勿論これに付ては關係當局としても色々打開策が考究せられつゝあるものと考へられるが、機會あらば稿を改めて鐵鋼業と輸送問題に關して檢討すべきことを約して擱筆したい

コークス增産に期待
三國商會の生産部門大擴充

[…]コークス增産が豫定されてゐる、一方煉炭の增産については京城のみで約百十五萬圓を投じて往十里に大工場を建設中であり、仁川、釜山、元山の各工場もそれぞれ擴張中でこれら諸工場完成のあかつきは煉炭の年産〇〇萬トンに達するはずである

製パン工組定時總會開く

朝鮮製パン業組合聯合會では、廿二日午後二時から京城府[illegible]町の京城製パン工業組合事務所に本年度定時總會を開催、十七年度收支決算並に十八年度收支豫算承認の件を附議原案通り決定、引續き會員の加入脱退、所屬各組合の事業運營、業者の銓衡、パンの規格並に價格問題、配給機構是正その他會員の希望意見について種々協議を行ひ、同四時すぎ散會した

本社寄託獻金

國防獻金 廿一、廿二日扱

【陸軍】▲十圓十二錢平北宣川邑黄金町九八本社宣川支局扱▲十圓京城府瑞榮町四丁目石村濟榮▲二圓六十錢平北宣川邑本社宣川支局扱▲二圓京城府黄金町一丁目昭和鑛業下本晋敬【海軍】十五圓江原道鐵原郡鐵原邑勝部菊太郎▲十一圓十三錢京城府三坂國民學校四ノ三久保稔▲九圓五十八錢咸北道鍾城郡行營面屆山國民學校兒童一同▲十圓京城府瑞榮町四丁目石村濟榮▲五圓七十錢西大門町京中班打頭島子外四名▲一圓四錢慶南昌寧郡靈山南國民學校金村光定

累計【國防獻金】八十八萬八千三百四十五圓八十六錢【恤兵金】二十三萬四千八百十三圓七十七錢

總合計 百十二萬三千百五十九圓七十九錢

眞鍮器十七點京城府瑞榮町四丁目石村濟榮

株式市況（廿二日後場）

朝取短期 銘柄	大引	高値	安値
高周波	[illegible]	[illegible]	[illegible]
朝工新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩村	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東拓金	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小林	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鐘新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
商船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
マグネ	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重新	[illegible]	[illegible]	[illegible]

大株短期 銘柄	大引	高値	安値
鐘新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鐘紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日石	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日立	[illegible]	[illegible]	[illegible]
帝人新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
郵船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
商船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重工	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神戸鋼	[illegible]	[illegible]	[illegible]

東株短期 銘柄	大引	高値	安値
郵船新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重工	[illegible]	[illegible]	[illegible]
帝人新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日立	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日管	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日石	[illegible]	[illegible]	[illegible]

隨想錄

〃四千萬人同胞の融和心は誓ひたり〃と卅七八年前には眉をあげて歌つた。この僅かな人口で、大國ロシヤを敵として起つた氣概は、思ふだに壯快だ▲四千萬人が一億と躍進したこれは單に〃數〃が增加したばかりではなく〃日本人の血〃が、鐵と肉とをふくらませたのである。半島同胞また榮譽を分けて持つ、思うて成らざるはないであらう▲日露戰爭當時は、人が少いと同時に富の程度も今日よりは低く、軍隊の裝備も劣つてゐた。しかも、機關銃すら持たずに二百三高地を攻略するの戰略と勝つ氣があつたのである▲一億 火の玉と いふ言葉があるが、悠久二千六百年に亘り、日出づる國の尊嚴を保ち得たところのものは凝つて光りを放つ〃日本人の血〃のはたらきであつた。その血がいま八紘一宇の大精神を顯現しつゝある▲人間の血を大別すると、紅毛碧眼をなすものと黑髮、黑瞳石の如き瞳を持つものとの二つになるが、日本人には、神々の血が流れてゐるのを、紅毛碧眼の徒は理解する すべを知らぬだらう▲畏多くも現神にいます大君の赤子である日本人、これは征服されたり、侵略されたりして、勝者が強者の支配を受けるに至つた國の、所謂人民とは違ふのであつて、自然、體内に流れる血が他と異るわけだ▲日本空襲を前にして、處刑を怖れる飛行將校らに〃日本は道德の高い人々の結束した國だ〃と敵がいつたのは、明かに〃日本人の血〃が彼等よりも勝れてゐるのを 認めた結果である▲神々から、その尊ぶべき血をうけついだ日本國民たるもの、人類の敵を擊滅して地上に永遠の樂土を築くのは、神々に應へまつる唯一の道と知らねばならない。

文化 腦電流の話（2）
挾間文一

筆者も十年前から腦電流の研究に着手し、動物の味覺中樞、嗅覺中樞、耳迷路機能中樞の研究に新知見を追加することを得た。家兎や猫や犬等の腦の皮質のどこからも、常に電流を導き得る。この電流の強弱や經過は、腦の各部で一定してゐるが、電位差は一ミリボルト以内で、振動數は一秒間數回乃至十數回を算する。

即ち動物に匂を嗅がせたり、味液を舌の表面に塗つたり、回轉盤上で廻轉させたり、糖分や食鹽を注射して急に血液成分に變化を起させたりすると、夫々特定の部位に於て、腦電流は增強される。これを働作電流と呼ぶが、時としては之等の感覺刺戟を與へると、反つて腦波の抑制作用が起つて、振幅が小さくなることがある。

この抑制作用は家兎に於て最も著しく、然も感覺刺戟が最も抑制的効果を示す。猫の睡眠時に腦波を描いてみると、眠りの初めは反つて覺醒時よりも波は大きくなるが、その後次第に振幅は減じ、遂には眠る前よりはずつと小さくなり、覺醒と共に次第に舊に復する。

このやうに腦波の研究は、最初動物に於いて基礎的研究が行はれたのであるが、最近における興味の中心は、人間における腦電流に移つて來た。（圖は筆者の撮影せる猫の腦波曲線）

1 Sek.

不連續線　忘却

人間の記憶には限度がある。即ち、忘却が記憶を鈍らせるからである。

もしも、忘却といふことがなかつたならば、僕等は、今まで掛けた電話番號を全部憶えてゐる筈だし、また、街路ですれ違つた人の顔も、そのまゝ知つてゐる筈であつて、隨分と人生が煩はしいものになつて來る。

つまり、忘却は人生に於ける一種の潤滑油であるが、それだからといつて、今、日本が戰つてゐるといふことを忘却するが如きは、斷じて許され難い。

京日歌壇

牡丹江 東 辞子

わが庭に時に名知らぬ小鳥らの飛び來て啼きぬ春は來迎ふ

仁川 森田彌壽子

憎からで獨りしままに春は來ぬさみしき心秘めて街ゆく

同 美智子

父上のセルの古着をもらひ受け間近き春の服作り居り

京城 河合岑時

靜かなる風の音聽けば春と知るその風の音柔らかにして

水色 水丘たか子

たらちねの母を憶へば頑なの心和みぬ母を戀しみ

【雜詠】五月廿日（木）締切

五月の劇映畫
番組一部を變更

朝鮮映畫配給社では五月京城封切豫定の新作劇映畫番組の一部を、次の通り變更した

五月六日から紅系が松竹京都作の『家』を、白系は大映作品『シンガポール總攻擊』を、十三日から以上の番組が入れ替つて一週間再映、廿日から七日間紅系が東寶の『姿三四郎』で、白系は長篇漫畫『桃太郎の海鷲』と記錄物『闘ふ護送船團』の二本立で、この次週に限り入れ替へを行はず廿六日で打切り、廿七日からは海軍記念日視聽週間として紅系が大映の『海ゆかば』を白系は長篇記錄映畫『海軍戰記』を出す

朝鮮樂劇團
徵兵制實施に沸き 各地で二の替り

上る半島の喜びを音樂や劇に託して内地へ旅立つた朝鮮樂劇團一行五十餘名は約二ケ月間東京を初め各都市で好評を博してゐるが、大都市一巡を機に二の替り番組を編み、更に各都市を左の如き日程で再公演、この間產業戰士の慰問公演を併せて催す

京都（廿一日から[illegible]日まで）神戸（五月一日から五日）大阪（六日から十二日まで大劇へ）尼崎（十三日から十四日まで）東京（十七日から卅一日まで丸の内邦樂座へ）

文化だより

◇淺原鏡三氏（映畫配給社業務部長）京城府東崇町二〇一番地ノ二六へ轉居電話東局一三六七番

◇多磨短歌會四月例會 二十五日（日）午前十一時綾瀬津町二〇五ノ一一伊藤波子氏宅に集合、辨當を持參し江岸に吟行

登記公告

『前線と銃後がつちりと』
けふから開く軍人援護運動

殉國の英靈一萬九千九百八十七柱を新祭神と仰ぎ奉る春の靖國神社臨時大祭は廿二日の招魂祭につゞいてけふ廿三日から一週間、櫻散る九段の聖域で嚴かに執行されるが、新建勳神が次々に永劫の奥深く鎭まる曠古の盛儀に呼應して全國の津々浦々ではけふ廿三日から廿九日まで軍人援護を展開、わが朝鮮でも軍人援護會朝鮮本部、國民總力聯盟、大日本傷痍軍人會朝鮮本部、大日本婦人會朝鮮本部などを中心に二千五百萬が起ちあがつて美しくも逞しい軍人援護精神昂揚運動を開く、世界を舞台に"擊ちてし止まむ"の闘志を全身に燃え立たせて死鬪するわが陸海皇軍の苦鬪を想ふとき、けふかうして二千五百萬が銃後に安閑としたその日その日を送る有難さを忘れてはならない、いまこの瞬間にも太平洋では大陸ではわが將兵が天皇陛下萬歲を叫びながらにつこりと笑つて散つてゐるに違ひない、この悲壯、忠勇を想ふときわれら銃後はぢつとしてゐられやうか、起ちあがらう軍人をその遺家族をそしてこの銃後と前線をがつちりと一つに結んで決戰に勝ち拔かう こゝに民族の血沸る諸施策を傾けて半島軍援運動は先づ廿三日午後八時卅分から田中政務總監が京城放送局のマイクに起つて"わが軍人勇士を護らう"と全鮮に呼びかけて放送、一方二千五百萬民衆は戰歿者慰靈碑及び忠靈奉安所を參拜、さらに陸海軍墓地清掃、至誠の情を傾けて遺族を訪問して慰問、また『護國の英靈讃仰會』を全鮮的に開き、街は軍人援護の唱、宣傳、ポスターそれに京城丁子屋での軍人援護寫眞展覽會を開催、銃後決勝の都は軍人を護る熱誠で溢れ出すのだ

—軍人援護行事—

◇傷痍軍人會員の令旨奉讀 大日本傷痍軍人會支部及び同分會を單位に會員からなる令旨奉戴運動を實施、併せて再起奉公の信念を固めること

◇婦人の軍人援護懇談會と傷痍軍人慰問—大日本婦人會を中心に會員の軍人援護懇談會を開催して會員の軍人援護精神透徹、また傷痍軍人の結婚斡旋、慰問文發送などの具體的方策を樹立して實踐に努めること、一方會員として最寄りの陸海軍病院、傷痍軍人援護所を慰問させる

◇職場の慰問—官公署、銀行、會社、工場、鑛山の外各々の職場聯盟では、職場または愛國班を單位に、その職場、愛國班から入營、出征の軍人に對して"戰場消息"のやうな便り文を出して慰問激勵すること

◇出征軍人家族慰問撮影奉仕—寫眞聯盟員、その他寫眞業者は出征軍人家族の慰問撮影を奉仕的に實施、その遺家族は寫眞を出征軍人に發送する

◇巡回映寫會の開催—各道の映寫班では軍人遺家族、傷痍軍人の慰問を兼ね、國民一般に對して軍人援護精神昂揚に資する巡回映寫會を開催

◇軍人援護ポスター募集—軍人援護朝鮮本部では軍人援護ポスターの懸賞募集を行ふ

◇軍人援護寫眞展—國民總力聯盟軍人援護朝鮮本部主催で運動期間中、京城丁子屋百貨店に軍人援護寫眞展覽會を開催

『軍人援護について』
今夕、田中總監放送

軍人援護精神昂揚運動は廿三日から向う一週間に亘り全鮮一齊に展開するが、田中政務總監は初日の廿三日午後八時半から官邸で電波を通じて『軍人援護について』と題し半島二千四百萬民衆にお互は皇軍に感謝を捧げてしつかりその家族を護りませうと軍援精神の昂揚を呼びかけることになつた

遺族神苑に參拜

【東京電話】靖國神社春の臨時大祭はいよいよ廿二日午後七時卅分の招魂式の後に引つゞき廿三日から廿八日まで六日間にわたつて九段の淨域において嚴かに執り行はれるが、今宵の招魂式を前に遺族達は早朝から神苑に參拜して親身もおよばぬ日婦の人達のやさしい勞りを受けながら、あるひは事變展覽會大パノラマの前に佇み、あるひは遊就館內に陳列された滿洲、支那兩事變、大東亞戰爭に記された血の記錄に感激を新たにした

靖國神社招魂の儀

【東京電話】大東亞戰爭殉國の英靈一萬九千九百八十七柱を祀る靖國神社春の招魂の儀は二十二日午後七時櫻若葉の香りほのかに漂ふ九段の淨域で嚴かに執行された

この日建勳神たちの新に鎭る靖國の宮居は早朝から神職、大祭委員、日婦、青少年團の精進潔齋した淨域に塵一つなく、恭しく拜すれば中門の大扉に浮き出た燦然たる御紋章が一きは神々しい、やがて定刻曠古の盛儀に軍國の再會を幻に描きつゝ八紘の山河を越して帝都に集つた四萬遺族は正裝の胸に新しい銀鵄の遺族達も誇らしく係員に導かれて續々參集、本殿、中門間の中庭、中門前參道の兩側と御靈璽の進ませ給ふ御道筋に寂として着座する

庭燎消ゆる淨闇 建勳神こゝに鎭る
再會の榮に感泣の遺族四萬

同時に久松中尉の指揮する東部第二部隊儀仗兵一ケ中隊參着、同卅分までには豐田臨時大祭委員長をはじめ合祀關係部隊(代表支那派遣軍芝陸軍大佐)在京陸海軍各官衙、學校、在京東部軍、航空軍各部隊の勅奏任官總代、陸海軍兩省係官、鈴木宮司以下神官參進して招魂齋庭內所定の座に居並んだ、いよいよ招魂の御儀開始である

齋場營繕神事に稻宮司神饌を供へれば海軍々樂隊の莊重な越天樂の調、遺族の中には早くも胸迫つたのであらう、のハンカチを目に當てゝゐる老人も見られる、宮司恭しく祝詞を奏し豐田委員長先づ拜禮、續いて參列諸員係官拜禮、宮司それより本殿に參進して御扉を開き祝詞を奏上、再び齋庭に戻つて神饌を撤すれば越天樂は再度重々しく奏せられた、軍樂の調べ齋り哀音そくそく迫る『水漬く屍』奏樂の頃には境內そこゝゝに赤々と燈されてゐた庭燎は一瞬にして消え烏羽玉の淨闇と化した、御羽車の進發である、襟を正す遺族の瞼に靈璽に殉じた血族の面影が浮ぶ、珠數を右手に遺兒をひしと抱きよせた若き軍國の妻は『お父さんがいらつしやる、しつかり拜むのですよ』と健氣に小聲で諭してゐる、しはぶき一つない參道を夜目にも鮮かな白衣の先驅に續いて陸海軍兩省係官、少しおいて豐田大祭委員長、軍刀の柄を握つて靜々と歩を運べば國學院大學の學生白丁が整然と擔ぐ御羽車だ、親子を、夫を、父を、兄を呼ぶ聲が言葉なき叫喚の如く夜空に吸はれる、小さな手を合せて無心に念ずる遺兒もある、眞一文字にきつと結んだ口許に皇國に生ひ立つ無上の光榮を雄々しくも痛感してゐる老爺、無心に拍手を打ち滂沱たる涙のうちに『倅見たか、天子樣の御榮を』と夢中で告げる軍國の母などく、同胞、血緣無上の感動の波は次々に高潮して今ぞ再會の聖なる一瞬である、遺族たちがほつとわれに歸り瞬をしばたゝいて歸舍する頃は暮の中天に新祭神の勳を讃へる如く再び燈つた燈籠の五色の光が照り映えてゐた

若き半島に培ふ 御祖先を敬ふ精神
本社主催 全鮮學童 聖地參拜代表決る

本社主催第五回『全鮮學童代表聖地參拜』は京城府初め全鮮各道文教の援護の下にその代表學童の選拔を急いでゐたが廿二日次の如く引率者と共に決定した、この催しは一億國民擧げて皇國の大業に邁進する秋我が皇國精神の基底をなす敬神崇祖の精神を半島少國民に體得させようとするものである、一行は廿四日午前十時まで本社に集合、直ちに朝鮮神宮に參拜して神宮參道皇國臣民誓詞塔前で結團式を行ひ、午後二時總督を訪問挨拶ののち宿舍吉野町丸屋旅館へ入り、廿五日は市內見學に一日を過し廿六日午前九時十五分發列車で京城府學童の盛大な見送りのうちに京城を出發、橿原神宮、皇大神宮、宮城、明治神宮、靖國神社その他の聖地を十四日間の豫定で巡拜、聖地に漂ふ森嚴なる皇道精神の眞髓に觸れることになつてゐる

◇京城代表(德壽)金本圭弘(嶺南)德水駿泳(錦町)延山選鍋
◇京畿代表(利川第一)千葉基成(安城邑內)春岡偉還
◇咸南代表(定平郡東)金山洪善(和城)清原東藏
◇咸北代表(鏡城第一)大山孝藏(雄基松峴)豐村健一
◇平南代表(江西德興)大山敏雄(孟山水昌)方山元珉
◇平北代表(龍川)德山希一(楚山雲城)金豐仲享
◇黃海代表(延白)安城翰雄(谷山新德)岸原睦一
◇江原代表(通川庫)金山容燮(平昌日新)甘永昭典
◇忠南代表(舒川西林)林正四郎(青陽)金山斗會
◇忠北代表(鎭川常山)綾城炳漢(丹陽東)豐田多散
◇全南代表(羅州大正)白土昌基(良山)平山相煥
◇全北代表(群山昭和)信川秀夫(全州豐南)大山用亮
◇慶南代表(釜山水島)玉山光成(金海第一)安原義雄
◇慶北代表(迎日)岸村美星(永川庫部)金谷炳吉

團長忠北學務課視學八野井滋、副團長平壤平川公立國民學校長渡邊善綱、顧問總督府學務課屬西村哲雄、京城日報社小國民部記者山下靜山、事業部員西原緣郎

胸に輝く軍援
高女、兒童に配布

軍援精神の昂揚標示を胸に英靈に感謝する心を捧ぐるため軍人援護會京城府分會では廿一日府內各中學、高女及び國民學校兒童に紙製の感謝記章を配布して廿二日から七日間に亘つて全鮮に起す『軍人援護精神昂揚運動』展開中各校生徒兒童の胸につけさせることになつた、この記章は釜山水島町三六九義永儀氏よりの寄贈であり同氏はそのほか多數の援護事務用ピン多數も併せて同分會に贈つた【寫眞—感謝記章】

優賞に輝く兩提督の面影

【東京電話】特旨優賞の恩命に榮える山口多聞中將、加來止男少將の不朽の勳はわれら國民の永へに忘るべからざるものであるが一昨年十二月八日眞珠灣襲擊に際して山口中將は○○航空戰隊司令官として艦長加來少將麾下の海鷲をして一擧にオアフ島目がけて進發せしめ敵米國艦隊主力潰滅の偉功を樹てた、爾來兩提督の率ゐる戰隊はウエーキ島にアンボンにアラフラ海に更に遠く印度洋にまで出擊して敵基地及び艦艇を潰滅させたのち昨年六月東太平洋方面の作戰に挺身、彼我兩軍決戰の間にあつて果敢なる反復攻擊を敢行、敵空母一隻擊沈、他の一隻を擊破し大巡を亦擊沈し敵機百五十機以上を擊墜と戰果は頻にあがつたが自艦もまた敵機多數の攻擊をうけその乘艦は沈沒に瀕した、中將は總員を他艦に無事移乘せしめたのち艦長加來少將とともにさか巻く波間に從容と散華したのである、當時部下であつた○○參謀、山口中將の同期生である航空本部總務部長大西少將、加來少將の同期生、航空技術廠田中大佐は兩提督の人となりその偉業を交々次のやうに語つたが、この談話こそ兩提督ありし日の面影を一億國民の前に彷彿たらしめて餘りあるものがある

『我一擊、大戰の先陣』
ハワイ攻擊に烈々の訓示

山口中將
○○參謀長談 私は昭和十五年五月より昨年四月迄の約二ケ年直接參謀として山口中將の薰陶をうけたのであります、その間軍艦に對する徹底的空襲とか大東亞戰直前の猛烈な艦隊訓練とか非常な重大時機に故中將があるときは最高指揮官としてある時は一武將として作戰の指導能力の鍊成などに精魂を傾けて苦心奮鬪されたことは今なほ心に銘じてゐるところであります、故中將の最大の功績はハワイ攻擊であります、大空襲決行前○○士官室に准士官以上を集め左の要旨の訓示がありました

暴戾卑劣なる敵米國海軍はすでに密かに衝するところがある、遂に今大命によつてわれらは開戰劈頭ハワイを急襲するの光榮ある命を戴いた、想へば卅年日夜鍛錬に努めたのは一に今日の御奉公を果さんがためであり今その秋は來たのである、宿敵米英と洋上に相見えわが一擊によつて神國の皇威を示しこの世紀の大戰爭の先陣を勤めるのは實に武門の本懷これに過ぐるものはない、訓練はすでになり準備すでに整ふ、人智を盡くし臣道の限りを盡げ今や日の本に不足はない、この誠忠とこの海軍力を提げて戰ふ以上天下何事か成らざらんである、さあれ今次大戰の容易ならぬものなることは申すまでもない、かつまたわれくの前途に寒風怒濤敵の阻止反擊など幾多困難なる障碍あるはもちろんなるも天は名なき戰ひに與せず、天佑必ずわれにあるを確信するものであります、こゝに杯を上げて遙かに聖壽萬歲を三唱するとゝもに豫め成功を祝し諸官の武運長久を祈る

滿座寂として聲なく 天皇陛下萬歲の概が沸き起つたのであります ついで故中將の發言により一同感激は決死隊の軍歌に爆發した、歌ひながら誰も涙が止めどもなく流れて來る、戰はずして敵を呑むの概ありとはこの場の光景をいふのでありませう、私は生死を顧みず國難に殉ぜんとする皇軍の本質を見て感激に身の打震ふのを禁じ得なかつた、ハワイ急襲の後故中將の滿足は想ふに餘りあり、同時に散華した部下の英靈に對する哀惜の情を二首に寄せ冥福を祈られたお姿が眼前に彷彿します

惜まれて花と散りにし丈夫の功は高しみんなみの空

常夏の島の緑と諸共に譽れは朽ちじ末の世までも

海鷲育ての親
感狀四度、至孝の人

加來少將
田中海軍大佐談 故加來少將の御祖先は大分縣加來庄に代々武士の道にいそしまれた由緒深い家柄であると伺つてゐる、八代中學を終了して明治四十四年九月われらは共に兵學校に入校し相携へて切磋琢磨もつて盡忠報國を誓つたのである、海軍生活三年間、明敏なる方略と不動の信念とをもつて時に兵學教官としては幾多有爲の人材を訓育し、艦船に乘じては艦務その宜しきを得、指揮官としては烈々たる氣魄と卓越せる統率をもつて任務を達成し國家に貢獻するところ顯著であつた、特に故少將は海軍航空の發達に盡瘁され支那事變では平素育成した部下を率ゐて中南支の攻略作戰に武勳を樹て支那方面艦隊司令長官から感狀を授けられること實に四度に及んでゐる、大東亞戰爭勃發するや劈頭の一擊にハワイを急襲したのち轉戰久しきに及んだが、遂に東太平洋上に護國の神と化せられた、まことに惜みても足りぬ心地がする、このやうな武人をわれらの級から出したことに對し非常に誇りを感じてゐる、加來は兵學校入校以來正義感に強くこれを持すること秋霜の如く內に潑剌たる情深い性情をもつてゐた、從つて部下はその德を慕ひ彼のために死をも辭せぬ覺悟をもたせられた、また家に在つては母堂に對してはよそ目も美しい至孝の子で奧樣やお子さんに對してはまことに優しい夫でありお父さまであつたと思ふ、私たちは加來に去られて寂しく感じられるが加來の精神は必ず大楠公や軍神廣瀨中佐の如く七生報國の念願に燃えてゐることゝ確信する

砂上に"忠"の字
義手の訓導 慕ふ學童

早くも一ひら二ひら散りこぼれる滿開の櫻花の下で可愛い國民學校の女生徒と遊戲をしてゐる温顏の先生—あ、その訓導は隻腕だ、その人は京城東崇町二ノ四太田茂治氏(三〇)で、かつて陸軍上等兵として張鼓峰事件に參加した勇士であるが、群がる戰車を相手に奮戰激鬪してゐるうち呀つと云ふ間もなく、握つた銃諸共右腕は砲彈にふつ飛ばされた、身は斃ついても屈せぬ魂を抱いて歸つた太田上等兵は、負傷の癒えるを待つて京城師範學校の短期講習生として入學し、再起奉公の念に燃えて研鑽の功を積み、卒業と同時に昭和十五年九月卅日附の辭令で京城清雲國民學校の訓導に就職した、教壇は太田上等兵にとつて新らしい戰場であつた、不自由な左手で書く黑板の字はぎこちなくとも生命を持つて躍つてゐた、貴い戰場の體驗をそのまゝ次代を負ふ少國民に吹きこむ爲に兒童は眼を輝かして同訓導の教授を受けるので"強く明るく生きて子供達をその信念で指導するのが名譽ある傷痍軍人に課された任務だ"との自信を持ち三年を頑張りつゞけた今では忝けなくも恩賜の義手を戴いて、なんの不自由もなくなつた、軍人援護運動の日同訓導を訪れると今は三年の女子組受持の先生として何の屈託もない朗らかな顏を櫻花の下にほころばせて語る"最初は字が書きにくくて困りました、元來が字が下手な方なので結局左手で書いても同じでした、今ではこの通り早くかけるでせう"と氏は指先で砂の上に"忠"と書いた、聞けば氏は入營前は郷里の農業學校を出ると共に鐵道局の京畿道訓練所職員として奉職、除隊後は再び鍬を握るか、子供たちの先生になるかに就て考へたが"俺よりも強い兵隊を造つてやらう"と決心して今日の職を擇んだ、昨年迎へた夫人良子さん(二〇)は文字通り氏の右腕となつて仕へ"あなたは負傷が癒えるまでの間、社會から温かい援護の手をさし伸べられていらしたのですから、この御恩報じを職場に向つてなさいまし"と勵ますので、氏はひたむきに教壇に精進してゐる、そして今る と語つた【寫眞—教へ子と戲れる太田先生】

武者小路、谷川兩氏を圍む座談會

聯盟主催で廿四日 さきに南京で開催の日華文化會議に出席、重責を果して目下歸路にあるわが文壇の權威武者小路實篤、谷川徹三の兩氏は半島視察のため寄城するので、總力聯盟では兩氏を迎へて日本文化會議に於ける諸問題を聽き併せて半島の文化問題などについて意見を交換すべく廿四日午後七時半から京城太平通遞信事業會館會議室で座談會を開く なほ傍聽の希望者は總督府內國民總力聯盟文化課宛、葉書で申込めばよい

朝映啓發協會總會

廿二日午前十時より本府に於て各道國民總力課首席屬及び映寫主任技術員、各外局の他加入團體代表者ら五十餘名參席江口總務局長を總裁に推し、會長に堂本情報課長が就任、半島映畫に於ける映畫啓發宣傳に乘出すことになつた

話題特急

☆……總力聯盟で募集中の決戰半島の志向を指示する日本文化懸賞論文『皇道世界觀に基く半島文化の再編成』はこのほど締切つた

☆……その應募總數百八十篇といふ賑さだが何れも全半島文化人の決意を表明した努力の珠玉篇

☆……その中には堂々たる中等學校長、名望ある社會事業家、宗教家らの進んで應募した雄篇、師範學校の若武者たちが初陣の意氣も凄く必勝の意氣に燃えて應募してゐる

☆……これらの論文は各選者の手許で愼重に審査を急ぎ、遲くとも本月末までには光榮の入選者を發表するはず

小火

【仁川】二十一日午後十一時頃花町一丁目丸星出張所トタン葺倉庫から出火したが消防隊員の出動作業により一部を燒失したのみで幸ひ鎭火した、出火原因について目下調査中

ラジオ 23日

朝 六・三〇 1『戰友を偲ぶ』猿田泉翁、2朗讀『靖國神社招魂祭を詠へる和歌二首』菅原長七 ▲七・三〇音盤 ▲九・〇〇(城)『東亞のこころ』魚木忠一 ▲一〇・〇〇『ツバメノシングン』箱崎コドモ會 ▲一一・〇〇音樂『海ゆかば』鳥居忠五郎ほか

晝 〇・三〇 1オルガン獨奏『前奏曲と長調』ほか大中寅二、2フルート獨奏『ハンガリヤ田園曲』ほか伊藤晉 ▲一・〇〇(大)朗讀『戰陣訓』ほか杉本放送員 ▲二・〇〇日本文學物語『古事記』武田祐吉 ▲二・三〇(城)音盤 ▲三・〇〇(城)商業用語講座 林久次郎 (城)音盤 ▲四・〇〇(城)『初等裁縫』の編纂趣意 太田一江 ▲四・三〇(城)『母の手紙』(鮮語)牧山白水

夜 六・〇〇少年團だより『僕等はかうしてゐる』鹿島縣幸騎少年團 ▲六・三〇室內樂『春の別れ』『九段の春』ほか 暗室內樂團 ▲七・三〇1『招魂の御祭を拜して』折口信夫2國民合唱『海ゆかば』ほか東京合唱團 ▲八・〇〇浪花節『風雲青葉城』木村友衞 ▲八・四〇(城)『軍人援護について』田中政務總監 ▲九・〇〇(城)櫻の夕(鮮語)獨唱 金蒸塡、詩吟 安田春山、退分 洪泰壽、尺八 武井一興、管絃樂 京城放送管絃樂團 ▲九・四〇(城)『軍人援護について』(鮮語)田中總監(譯)永井炎鐘

夕刊　京城日報

青木、ドクー會談　完全に意見一致

日佛印關係更に強化

【ハノイ廿二日同盟】青木大東亞相は南方視察の第一歩を佛印首都ハノイに印し、二日間の滯在中ドクー佛印總督と前後四回にわたつて會見、特に第一日は芳澤大使主催の茶會において同總督と約一時間にわたつて懇談、隔意なき意見の交換を遂げ、日佛印兩國間諸問題に關する極めて意義深き談合を行つた、日佛印兩國關係は共同防衞協定、その他の約定により緊密なる協力關係にあるが、さらに本年に入るに及んで諸懸案の妥結により兩國關係はいよいよ友好裡に進捗しつゝある、かゝる際青木大東亞相の來訪を見、ドクー總督との間に完全に意見の一致をみたことは、佛印がさらに東亞の新事態に對應すべき新紀元を劃するものとして重視されよう

青木大東亞相ならびにドクー總督は兩國の協力政策が大東亞全般の利益および佛印の安寧福祉を確保しある事實を檢討、かつ兩國の特殊關係を一層緊密化、かつ印度支那の福祉增進のため兩國協力關係をさらに强化することの必要を認め兩者の間に完全な意見の一致をみるに至つたものでさらに第二日ドクー夫妻主催の歡迎晩餐會席上においては今後の協力を誓ふ挨拶を交換するなど友好的雰圍氣の裡にハノイ訪問の目的を了したのであるが、今回の青木大東亞相の來訪により、今後さらに强化さるべきことが期待され、兩國はこゝに强固なる紐帶によつて固く結ばれるに至つたのである

なほ青木大東亞相ならびにドクー佛印總督は數次にわたる意見交換の結果、廿日左の如き共同聲明を發表した

青木大東亞相、ドクー佛印總督共同聲明

青木大東亞相とドクー佛印總督とは東亞の一般的事態、殊に佛印の大東亞圏において負擔すべき使命につき數次にわたり意見を交換、青木大東亞相およびドクー總督は兩國當局の遂行し來れる協力政策が大東亞の全般の利益ならびに佛印の安寧および福祉を確保し、もつて有益なる效果を齎らせる事實を檢討しかつ兩國の特殊關係を一層緊密ならしめるがために右の協力政策をさらに强化すること重要なりとの點につき意見の一致を見たり

水入らずで懇談

ハノイの全日程了る

【ハノイ廿二日同盟】十九日午前ハノイ入りした青木大東亞相は、同日午後三時芳澤大使の案内で佛印總督府にドクー總督を公式に訪問、同四十分大使館にドクー總督の訪問をうけたが、この會談において青木大東亞相は大東亞戰爭開始以來佛印の示した友好的態度に對し今後の佛印側の協力を要望、この友好的態度こそ、佛印、日本の相互的利益とならうと挨拶をなし、これに對しドクー總督は歐洲の困難な狀態だが、自分は佛印において日本との傳統的友好を維持せよとの本國の訓令を遵守してゐる、佛印は日本との間に名譽あるフランスの名において共同防衞協定を締結してゐるのであり、自分はこの協定に忠實であることを誓ふと答へ、友好裡に儀禮交驩を終へ總督は一旦辭去した、ついで同五時半より官邸廣間において芳澤大使主催にて茶會を開催、青木大東亞相および隨員一行を大使府および現地軍幹部、佛印側はドクー總督をはじめ佛印政廳首腦一堂に會し杯を擧げて友好を祝し、終つて青木大東亞相は別室においてドクー總督と水入らずの懇談、青木大東亞相より大東亞戰爭に對する帝國の決意を說明、今後一層佛印側の對日協力を期待、日佛印關係に關し種々意見を交換、會談一時間にして同六時半意義深い懇談を終了した、九時より官邸において大使主催の晩餐會に臨み、第一日の日程を終つた、第二日の廿日は午前九時官邸出發ハノイ郊外カンタンに至り、日本の技術指導により黃麻栽培狀況を視察激勵のうへ同十時半大使府に入り全員を集めて訓示をなし、さらに第一日に引續き狀況報告を聽取した、午後は□時半より大使官邸に現地首腦部と午餐を倶にしつゝ懇談、同五時より在留邦人代表〇〇名を同官邸に招いて茶會を催し、夜は九時よりドクー總督官邸におけるドクー總督夫妻招待晩餐會に出席、青木大東亞相以下隨員一行五名、芳澤大使、栗山事務總長以下大使府首腦八名が出席、席上大東亞相およびドクー總督は挨拶を交し、食後再び懇談を重ねて同十一時半散會かくて青木大東亞は意義深き佛印首都ハノイ視察の全日程を終り、二十一日午前九時芳澤大使以下軍官民多數の見送裡に〇〇飛行場發次の目的地に向つた

【寫眞＝磯谷香港總督と會談する青木大東亞大臣＝電送】

暁を衝いて哨戒任務に出動　〇〇基地にて

（寺尾陸軍報道班員撮影……海軍省許可濟一〇一號……電送）

熾烈、國民に漲る戰爭完遂意欲

武部長官語る　滿洲國の決戰體制

アジヤの總力を結集して米英擊滅の一大決戰體制を確立すべく廿一、二の兩日に亘り總督府に開かれた第三回大陸連絡會議は大陸より參集せる各地代表によつて、熱烈な意見の交換が行はれてゐるが、これに滿洲國を代表して出席中の武部總務廳長官は、廿二日朝、半島ホテルの一室で次の如く滿洲國上下を擧げての烈々たる決戰意志を語つた

大東亞戰爭に對する滿洲國の立場は最初から日滿一體といふ確固不動の國是に基いてゐるものであつて一昨年十二月八日滿洲國皇帝陛下には詔書を渙發あらせられて滿洲國の立場を明快に御諭しになつた元來滿洲國は日本と理想を同じくしてゐるばかりでなく建國そのものが八紘一宇の精神より生れて來たものであり、建國神廟にも天照大神を奉祀してゐる、すなはち日本も亦惟神の道であるといふ國柄ではあるから今回も亦日本と一しよに立ち上つたのである、しかるに滿洲國はさうした國ではあるが、漢人、滿人、蒙古人その他多數の民族を內包してゐるのであつて今回の戰爭に際してこれら諸民族の間に熾烈な戰鬪意欲が生じつゝあるのは、實に今回の戰爭が獨り日本と米英の戰爭ではなく東亞全民族の戰爭である、若しこの戰爭に勝たなければアジヤの全民族が永久に米英の支配下に苦しまねばならぬといふ自覺、すなはち

東條內閣再發足（上）

水際立つた切れ味

八十一議會試煉の解題

【東京電話】櫻の散り染める陽春二十日の夜午後十一時、情報局發表によつて東條內閣の果敢な大改造が戰ふ國民の前に突如公表された、決戰段階に突入した大東亞戰爭下第三年目の春に當いて斷行して行つた湯澤內相、谷外相兼情報局總裁、橋田文相、井野農相の四閣僚、これに代つて台閣に列し、決戰態勢の表面に登場したのは外相に重光駐華大使、農相に山崎翼政會總務、國務相に大麻翼政會常任總務、情報局總裁には元外務次官天羽英二氏、內相の椅子は安藤國務相が就任し、文相は速かに專任文相を設置する方針のもとに東條首相の暫定的兼務と決定、こゝに內閣は全く陣容を一新した

東條內閣は暗雲低迷する日米交渉の難だゞ中、昭和十六年十月近衞第三次內閣崩壞の後を受けて成立して以來、東條首相を中心にがつちりと固めた同志的結束をもつて未曾有の難局に對處し、大東亞戰爭開戰以來の赫々たる戰果に呼應して內治、外交と多大なる治績をあげ、やや小揃ひの感があつたにも拘らず近來にない强力な內閣として國民の信頼を集め、殊に東條首相は戰爭指導者として、また稀に見る大宰相として嘖々たる聲望を擔ち得てゐた

組閣以來一年有半、その間湯澤次官の內相就任、安藤翼贊會副總裁の國務相就任、谷情報局總裁の外相榮進、青木一男氏の大東亞相新任など閣僚の異動は時々見受けられたものの、內閣を去つた者は昨年十一月大東亞省設置の際の東鄉外相たゞ一人であつたので今回の一擧四閣僚の更迭は世人の耳目

畏し、四前大臣に賜謁

【東京電話】畏くも　天皇陛下には二十二日午前十時卅分表御座所に出御、決戰下滋多重責を果して退官した前外相兼情報局總裁谷正之、前文相橋田邦彥、前內相湯澤三千男、前農相井野碩哉四氏に對し御慰勞の思召しをもつて親しく拜謁仰付られた

金鑛業の整備へ

評價委員十四名を任命

半島における金鑛業の整備方策に關し十日附上瀧殖產局長談の形式で總督府は內地に呼應しその方針要旨を發表したが、愈々廿六日これが評價基準を決定する第一回評價委員會を開催することとなり廿二日附田中政務總監を會長とした朝鮮總督府鑛業評價委員十四名を任命、同日附訓令をもつて委員會規程を公布した、委員十四名の構成は總督府五名、民間五名、內地官廳三名、統制會一名であり委員會幹事七名、書記二名を任命した

かくして十八年度中に一先づ二千萬圓を限度とし十八年度以降三ケ年間に國庫負擔となるべき契約、朝鮮鑛業振興に對する一億圓を限度とする金鑛業整備による損失國家補償の豫算措置と併せて整備保留朝鮮鑛業振興の增資、日本產金振興の吸收による機構確立とによつて强力且つ全面的金鑛業の整備を進めることとなつた

鑛業振興の統制完了が十月一日の豫定である關係から當面せる整備は日本產金振興朝鮮支社、帝國鑛業開發朝鮮支社によつて實行、十月一日朝鮮鑛振に引繼ぎ本格的整備機構統制の完結した朝鮮鑛振によつて大體十月以後に着手することになつた、朝鮮總督府鑛業評價委員會規程ならびに委員會の內容次の通り

朝鮮總督府鑛業評價委員會規程

第一條　朝鮮總督……

我軍、マユ完全制壓

【イスタンブール廿日同盟】マユ半島における日本軍の猛攻により印度派遣反樞軸軍の襲略したビルマ奪還は一場の夢物語に終つたが、殘存英軍部隊はその後も印度國境に向け潰走してゐる模樣で、ニューデリー來電によれば印度派遣反樞軸軍司令部は廿日頃次の如く發表したと傳へられる

アラカン地區の英軍は新陣地に撤退を餘儀なくされた、軍は二隊に分れて印度國境方面に移動しつゝある日本軍はマユ河をその御膝下に置いてをり同河上流にある英國海軍部隊の河口方面への退路は日本軍によつて遮斷されるに至つた

伊英俘虜交換

【ローマ廿一日同盟】伊政府筋の言明によれば、再び伊英兩國の傷病兵、軍醫、從軍記者などの俘虜交換が近くポルトガルのリスボン、トルコのスミルナ兩市で行はれる豫定といはれる見込みだが、交換は七月上旬に行はれる見込みだが、これによりイタリーに歸還出來る傷病兵は二千人以上に上ると見られる

後藤總長昇格か

翼贊會副總裁の後任

【東京電話】安藤國務相の內相就任に依り、翼贊會副總裁ならびに翼贊壯年團長の地位をその儘兼任するか否かは決戰下翼贊運動の一段と重視され內相と副總裁、團長兼任もこの際の一法として考慮されるが、政府と翼政會が、機構的にも人的にも一體の關係にある翼贊會と緊密連繫の關係が强化し……

具體方策を協議

大陸連絡會議第二日

北方大陸諸地域間の決戰態勢の互組織を强化する第三回大陸連絡會議第二日目の廿二日は前日に引續き總督府に委員外關係事務官を交へ幹事會を開催した、決戰力强のため各地が相互に積極的……することになつて

仁川府會議員候補者

遺髪に偲ぶ武人の姿
床しい川口雅雄少將の人柄

【東京電話】『武人の嗜みとして萬一の場合のために殘す』遺髮一封、これが武人川口雅雄少將が殘した最後の言葉であり最愛の妻文子さん（三九）雅美君（一七）に贈つたたつた一つの記念品であつた、尽忠ただ只管に盡忠報國の精神を貫き拔を離き、魂を練り一死奉公の誓ひも新たに昭和十七年六月五日雄々しくも太平洋決戰作戰の華と散つた川口少將の儼らざる姿なのだ、聞きばかりが武人ではない、藝術を愛し樂を嗜むもまた武人の姿なのだ、郷里和歌山縣小河中學時代より川口少將は繪をよくし、一時は美術學校を志望した程であつたが、結局この希望は少將を立派な海軍々人として生かした、幼い時から父を亡くし母一人の手で育てられた少將にはまたよき父でもあり、常に一人ッ子雅美君の教育については『物事を押しつけてはいけない、やりたいことをやらせなさい、それが最大に自分を生かす道なのだから』と文子未亡人にいつてゐたのである、文子未亡人は湘南逗子の家で

夫は家のことは總て私委せでただ時々雅美のことを注意するだけで、日方でも口癖のやうにいつてゐる精神訓話を私にしましたが、昨年三月〇〇でお會ひしましたのが最後で、何にも記念品がないが淋しければこれを持つてゆきなさいと下さつたのがあの遺髮でした『遺言はない、お前のことだからすべてを信頼してくれるだらう』といはれただけです、雅美も無事昨年海軍兵學校に入りました、夫もきつとよろこんでゐることでせうと健氣に語つた

“無口で多趣味”
岡田少將未亡人の談

【東京電話】大東亞戰爭開戰當初からハワイ海戰ビスマルク諸島攻略作戰などに燦々たる武勲を樹立惜しくも太平洋方面の戰鬪に壯烈なる戰死を遂げ、今回の論功行賞において功三級金鵄勲章の恩命に浴した岡田次作少將の遺宅は鎌倉市、鶴岡八幡宮門前のほとりにある、少將亡き後の家には未亡人文子さん（四一）はじめ次男の隆君（逗子中學五年生）三男洋君（一五湘南中學二年生）の三人がつゝましく家を守り、長男の彰君（二二）京都帝大理科三年生）は海軍の依託學生として京都にある、少將の嚴父は少將が十九歳の時亡くなり、母堂フウさん（七二）は郷里金澤市千日町に隱居されてゐる

質素な身なりに平常の簡素な生活もしのばれる、文子未亡人は口數少く少將在りし日の姿を左の如く語つた

有難いことでございます、主人は家庭にありましても至つて無口の方でしたが何事も默々と自分の仕事をやつて私にも軍の事は一言もいはれませんでした、これぞといふ遺言もありませんでしたが用心深い性格から家族のものにも僅かなことすら洩されなかつたのでせう、多趣味の人でしたが勝負事は運動、碁、將棋、なんでもござれで隆相手に野球などをよくやつてをりました、長男彰が海軍の依託學生ですから當然海軍に入り次男の隆も本人の志望通り海軍へ進ませたいと存じます

決戰だ！鍛へよう
全鮮に展く健民運動

決戰下銃後の務めは先づ健全なる身體を養成してこれを戰力增強の一點に集中し、大東亞戰爭を絶對に勝ち拔かうと國民體力の增强を目指して來る五月一日から十日間に亘り國民體力協會、結核豫防會、體育振興會及び大日本婦人會共催のもとに恒例の健全運動が全鮮一齊に展開されるが京畿道では運動第一日を健民精神昂揚日、清潔日、結核豫防日、近視、齒齲豫防日、兒童愛護日、性病豫防日、榮養食工夫日、大詔奉戴日、體力鍛成日、傳染病豫防日と十日間における實施要綱を掲げて三百萬道民の健民鍛成に努めることゝなつた

これによると運動第一日の〝健民精神昂揚日〟は各會社官廳學校職場毎に令旨奉讀式を擧行、各學校では本運動に關する講演、地方或は標語を募集する外一般では店頭裝飾、映畫會、講演會、座談會を催す外早寢、早起、ラジオ體操等を獎勵して健民運動の趣旨徹底に努め

第二日〝清潔日〟は公衆道德を昂揚する一方家庭の清潔整頓、國民學校の公園、道路等の清掃奉仕、電車、汽車、劇場、浴場、公衆便所の清掃

第三日〝結核豫防日〟結核豫防に關する座談會開催、道立醫院、公醫、醫師會の診料無料相談、街道路淡検査並に取締り、家具の日光消毒

第四日〝近視、齒齲の豫防日〟診療無料相談

第五日〝兒童愛護日〟府邑における母の會開催、乳幼兒の審査及び優良兒表彰、兒童健康祈願祭この外府郡の新婚婦人又は女子青年に育兒知識を與ふため兒童愛護施設の見學を行ふ外本府道共催で〝母と子の厚生展覽會〟を主要地で開催し又愛國班毎に母の常會を開き京城府內國民學校六年生の體操新念投球鍛成大會を京城運動場で擧行する

第六日〝性病豫防日〟道衞生課で優生相談所を開き無料相談に應じ特に京城、仁川、開城三府で醫娼妓を集め結核並に性病に關する講演映畫會を開催する

第七日〝榮養食工夫日〟講演は婦人に呼びかけ會並に講習を開催する外本府衞生試驗所で〝ゴツク〟の講習會を開く

第八日の〝大詔奉戴日〟第九日の〝體力鍛成日〟各種團體の體育會を催すが午後一時から武德會道支部主催の國民學校、中等、一般の劍道大會が道巡査教習所で擧行され、また各團體では體操或は登行を行ひ運動最終日の十日〝傳染病豫防〟は料理店飲食店方面の衞生思想の徹底を促し各學校においてはそれ〴〵講演會を開くことになつてゐる

醫師、藥劑士の試驗施行

總督府では今年度春季の醫師、齒科醫師、藥劑師の試驗を來る六月十一日から一齊に施行するが、試驗場並に受驗規定は次の通り

[illegible]

撮影した手札型脫帽寫眞を添へて履歷書、身分證明書（醫學校齒科醫學校、藥學校三年以上の課程を修了したものは卒業證書または修了證書）を揃へて五月十五日までに總督府警務局衞生課宛申込むこと

樂し第一夜の夢
入京した半島遺族

【東京電話】櫻花散る九段の杜に仰ぎ合祀さる護國の華のその遺族部隊は廿日入京、父が、子が、兄が、神鎭る東京の地に樂しい一夜を過した、廿一日國婦會員の附添ひで靖國神社境內の受付に上京の屆出をすませて、市電、地下鐵其他の無料優待券などの交付を受けて、午後は自由行動に知人宅を訪れるもの、皇居を遙拜するもの等思ひ〳〵の半日を過し明日の招魂式に備へて夕食も早目に就寢した

神社境內に出陳臨時大祭終了後遊就館に收められる

敵艦の鹵獲品
靖國境內に出陳

【東京電話】昨年四月のわが印度洋作戰の際撃沈された英甲巡ドーセットシャー、また八月第一次ソロモン海戰においてわが海鷲と

警部らの錬成
廿八日から四日間京畿道で

民を率ゐるには先づ指導の立場にある官吏自らの鍊成が第一と京畿道では來る二十八日から四日間に亘り府、郡の內務課長、道廳內

[illegible]

敵を屠る魚雷に
鐵原中學生が金屬を献納

（寫眞＝鐵原中學生の金屬獻納）

これは最後の一品まで獻納せずにゐられないと鐵原中學校では校長の音頭で全校生徒百五十名が去る大詔奉戴日の八日から盟つて金屬類獻納多數に赤襷をかけ更に生徒達が學校附近の荒植替へに勞働奉仕を行つて得た金を碩貨にかへて十錢白銅千三百廿八枚、五錢白銅六百九十七枚、一錢銅貨二百九十二枚ほか古錢を吉岡教諭引率のもとに代表生徒五名が廿一日軍愛國部を訪れて倉茂報道部長に對し獻納の手續を取つたが倉茂報道部長は

遠路遙々御苦勞さんでした、必ず皆さんの愛國の至誠は、第一線將兵に通じて米英を叩き潰すであらう

と感謝の挨拶を述べ感謝狀を與へた

水産物即賣會
漁組の催し

朝鮮漁業組合中央會では五月一日

[illegible]

玄米食の常用
府聯盟が積極獎勵

【釜山】府聯盟では內地に呼應して玄米食常用運動を廿日から始めたが、節米からいつても榮養からいつても滿點であるので府民の積極的常用を要望してゐる

倉茂兵務部長
全北を視察

【全州】倉茂兵務部長は特別志願兵訓練所

[illegible]

取調中

みごと目標突破
慶北が五千四百萬圓を貯蓄

【大邱】慶北道十七年度中の貯蓄增强實績は五千三百七十三萬三千二百五十六圓で當初の目標額四千

[illegible]

輪禍で即死

廿一日午前九時半頃京城驛前進行中東大門發龍山行京電第二〇四號＝運轉手松川泳燮は線路を横切らんとした全北益山郡生れ申判述の妻姓女（三）と赤ん坊（當歲）に接觸轉倒せしめたゝめ兩人は即死、本町署で取調中

橋材と枕木に新機軸
鮮鐵技術陣の尊い研究成果

[illegible]

京畿道府尹郡守會議
廿六、七兩日

京畿道で來る二十六、七の兩日間に亘り府尹、郡守會議を道廳第一會議室で開催する

會議第一日は午前八時朝鮮神宮に參拜、同九時から開會されるが、當日は知事の訓示、指示事項打合を行ひ、七日は提出議案の懇談打合を行つて散會する

[illegible]

並に北長老派キリスト教指導者會に於ける講演のため二十二日午前七時二十一分全州驛着で來全、直ちに全州國民學校の志願兵檢査場を視察同十時全州青年訓練所を視察、午後七時半から道會議室で時局談座談會に臨んで後七時半から全州相生青年特別鍊成所、全州青年訓練所を視察、午後七時半から道會議室で時局を行つて銀杏家旅館に投宿、二十五日午前十時神社勞務者訓練標準公園を視察して金堤に向ひ、金山面金岩里部落を視察後に院坪の松岩油工場を視察後金堤を經て全南羅州に向ふ

けふの市況（廿二日）

株式　一呆り　買物添はず

前場　玉錢週一巡模樣とゝもに市場人氣も明朗化したが、戻りには未だヤレ〳〵的な手詰め買物潜んで川崎重工、川南工業等を除いては全般的に呆り商狀を呈した、しかし目立つて惡いものはなく押目は買狙はれてゐる、なほ短期は高周波五十圓五十錢と反り、岩村五十六圓九十錢から八圓と前日に比し一圓餘方猛進、新鐘七十四圓三十錢から四圓五十錢と引締め、部分的ながら買崩して來た嫌があつた

後場　（高下）地株のうち岩村鑛業が獨り漲騰を辿つてゐるほかは概ね小高下を廻り先行不透明であつた

一實物＝部分高

昨日來の買氣は再び弱化し造船業株を除いては概ね五十錢乃至一圓方引弛んだが、地株で材料含みである岩村鑛業は漸次その値頃を高めて侮り難い趨勢を辿つた、今後も選擇買が持續するものと豫想される、主なる出來値左の如し

三國商事新一六圓八一九▲高周波五〇圓三一四▲川崎重工七二圓三一四▲岩村五七圓〇一五一九一八圓〇一一▲川南新七八圓〇▲朝鮮石油新三八圓三

岩村鑛業昂騰　岩村鑛業は今前場寄付値五十六圓九十錢を安値に八圓と新高値を示現、前日に比し一圓餘方昂騰した、直接の動機は同社の株式が東邦炭礦に肩替りが傳へられてその將來性が買はれたものである、然しその眞實はなほ明かではないが、株價の昂騰ぶりから推して或る程度根據があるらしく、單なる買煽りと一笑に付するわけには行かないものがある

山陽パルプ堅り　王子紙系である山陽パルプ及び人絹パルプはパルプ値上げによつて同社の採算難が緩和されたのが好感され、兩銘柄とも四、五十錢方堅りを示した

後三國志
祁山の野（三）　【128】
吉川英治（作）　矢野橋村（繪）

理は明快に、聲は朗々、しかも何らの奇矯なく、激するなく、孔明は諭しつゞけた。

『かへりみるに、むかし桓帝、靈帝は御徳衰におはせられ、爲に、漢統やうやく衰れ、姦臣はびこり、田野年々凶をかさね、こゝに諸州騒亂して、ついで亂世の相を現した。――後、董卓出でて、ひとたび治めるも、朝野の議をみだりにけなし、四寇の亂、ついで起り、あはれ漢帝を民間に流浪させ參らせ、生民を溝壑に追ひ苦しむ』

孔明はことばを休めた。内に情を抑へ、外に平靜を保たんとするものゝ如く、そつと兩の袖を払ひ直し、羽扇を膝に持ち直して、更に語をついだ。

『――憐ぶも淚、口にするも穢れ多い。その頃の有様といへば、廟堂人あつて人無きに似、朽木を組んで宮殿となし、階陛すべて落葉は積み、禽獸と選りなき吏に衣冠させて祿を喰はしめ、讒間も亦、狼心狗走のともがら、道を口に唱へ腹に利を運ぶための場所でしかなかつた。――奴顏婢膝の徒、あらそつて、道にあたり、まつりごと私に歸る。――かくて見よ、世の末を。社稷をもつて丘墟となし、萬民の生靈を塗炭なして、それを聽む頭の人はみな野にかくれ――王朗よ耳の垢をのぞいて、よく聞かれい』

孔明は聲を張つた。

その聲は雲雀のやうに、高く天にまで澄んで聞えた。

『酒々。亂世のとき、余は若き傷心を抱き、襄陽の郊外に閑居して時あらん日を天に信じ、默々、書を讀み、田を耕しつゝあつたことは、さきに汝が云つた通りにちがひない。――然し當時の人、みなひそかに、切齒扼腕、ときの朝臣と僞政者の腐敗墮落を怒らざるはなかつた。――我も、もとよりよく汝を知る。汝は世々東海の濱にゐて、家祖みな漢朝の禍恩をかふむり、汝また、はじめ孝廉にあげられて朝に仕へ、更に恩澤をたまはりて漸く人となる。――しかも朝閣あやふき間、獻帝諸方に流浪のうちも、いまだ國を匡し、姦をのぞき、頭に宸襟を安めたてまつつた功業を立て、歪曲の文を作り、といふ功も聞かず、ひとへに時流をうかゞひ、權者に媚び、賢しげの理論を立てゝ歪曲の文を作り、賊子が唱へて大權を偸むの具に供す。それを賛つて榮爵を購ひ、それによつて錦衣美食の生を今日七十六歳の高齡まで保ち來たれる一怪物。正にそれは汝王朗ではないか。たとへ我れ蜀の總帥たらずとも、世の一民として、汝のその肉を啖ひ、血を大線に與ふるも、なほあきたらぬ心地さへする。――然るに、幸にも、天、孔明を世に出し給ふは、天なほ漢統を捨て給はぬしるしである。われ今勅を畏み忠勇なるわが蜀兵と、生死をちかうてこゝ祁山の野に出たり。汝は、これ諂諛の老臣、まこと正邪をあきらかにし、一世を光明にみちびくの大義は、汝の得意とする世渡り上手の手先や口先で勝てるものではない。家にひそんで食をむさぼり老慾に耽りてあるなら助けも置くべきに、何とて、似あはしからぬ甲冑を纏うて、みだりにこの陣前へはのさばり出たるか。それだけでも、あつぱれ天下の見世物なるに、この野に死屍をさらし、なんの面目あつて、黃泉の下、漢皇二十四帝にまみえるつもりであるか。退れつ、老賊』

凛たる終りの一喝は、矢のごとく、論敵の胸腑をつらぬいたかのやうに思はれた。

結論的には、漢朝に代るべく立つた蜀朝廷と魏朝廷とのいづれが正しいかになるが、要するに、その正統論だけでは、魏には魏の主張があり、蜀には蜀の論據があつてこれは水掛論に終るしかない。で、孔明はもつぱら理念の爭ひを避けて衆の情念を衝いたのである。果して、彼がことばを結ぶと蜀の三軍は、わあつと、大呼を揚げてその辯論を支持し、また自己の感情を、彼の言説の上に加へた。

それに反して、魏の陣は、啞のごとく滅入つてゐた。しかも又、當の王朗は、孔明の痛烈なことばに、血激し、氣塞がり、俛入るが如く、俯向いてゐたと思はれたが、そのうちに一聲、うーむと呻くと馬の上からまろび落ちて、遂に、その儘、息絶えてしまつた。

新刊紹介

▲食糧、榮養ビタミン（川崎近太郎著）國民食糧や榮養に對する分析、批判檢討を加へた書で、戰時下ビタミンや無機鹽の意義を強調し、ビタミン減少症の問題を詳細に述べ、且つ國民の食生活の質惡に觸れ日本人の榮養狀態の動向について經濟生活とも關聯させて考察してゐる（一圓五十錢、東京・本郷・龍岡・三十六・科學書院）

▲オマツリ（小春久一郎著）雜誌『童謠藝術』などを通じて幼兒童謠運動を活潑に展開してゐる作者自選になる佳品四十篇が輯められてゐる、可憐な、飾り氣のない、表現の美しい童謠集で幼い子供達への良き贈物（一圓五十錢、大阪此花・上福島南二丁目二〇五・大阪童謠藝術協會）